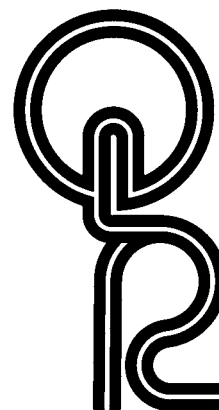


# QR Newsletter

## 第四紀通信

Vol. 27 No.1, 2020



台風19号(T1919)襲来後の多摩川。通常時の水面から2~3m高位に位置する立川市の高水敷にも、ニセアカシアなどの樹木をなぎ倒して礫が入り込んだ。現在でも多くの河川敷グラウンドが使用不可の状態のままである。(撮影：白井正明)

---

---

Vol. 27 No. 1

February 1, 2020

---

2020年大会案内(第3報)..... 2	評議員会案内..... 3
日本地球惑星科学連合2020年大会案内(第2報)..... 2	INQUA Summer School 報告..... 3
学術賞受賞記念講演会案内..... 2	会員消息..... 4

---

---

### ◆日本第四紀学会 2020年大会案内(第3報)

日本第四紀学会 2020年大会は、下記の日程で開催予定です。

開催期間：2020年8月28日(金)～8月31日(月)

開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス 全学共通教育棟 大阪市立自然史博物館 講堂

日程：8月28日(金) 一般研究発表(口頭およびポスター)・評議員会

8月29日(土) 一般研究発表(口頭およびポスター)・総会・各賞授賞式・懇親会

8月30日(日) 午前：シンポジウム：領域4のテーマで検討中

午後：一般向け講演会：チバニアンに関する内容で検討中

8月31日(月) 巡検：玄武洞をはじめとする山陰海岸地域を予定

\* 発表の申込方法などにつきましては次号以降の第四紀通信に掲載いたします。

### ◆日本地球惑星科学連合 2020年大会のお知らせ(第2報)

2020年の日本地球惑星科学連合大会は、AGU(米国地球物理学連合)と共催で2020年5月24日(日)から5月28日(木)にかけて幕張メッセ(千葉県)で開催されます。発表投稿受付は、1月7日(火)から2月18日(火)17:00まで行われております。投稿料が割引になる早期投稿の締め切りは2月4日(火)23:59です。

第四紀学会では、「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」を単独で、「活断層と古地震」を共同提案で主催します。また、その他の第四紀学と関係する多数のセッションに共同提案母体となっております。下記に主な関連セッションを挙げておきますので、発表登録をどうぞよろしくお願い致します。

H-QR06：第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス (J、会場：106)

口頭：5月26日(火) AM1、AM2、PM1 ポスター：5月26日(火) PM3

S-SS16：活断層と古地震 (J、会場：A05)

口頭：5月27日(水) PM2、5月28日(木) AM1、AM2、PM1、PM2 ポスター：5月28日(木) PM3

S-SS06：Active faults and Paleoseismology (E、会場：A05)

口頭：5月27日(水) PM1 ポスター：5月27日(水) PM3

U-05：人新世・第四紀の気候および水循環 (E、会場：101)

口頭：5月24日(日) AM2 ポスター：5月24日(日) PM3

A-HW32：水圏生態系における物質輸送と循環：源流から沿岸まで (E、会場：A08)

口頭：5月27日(水) AM1、AM2、PM1、PM2 ポスター：5月27日(水) PM3

H-CG22：デルタとエスチュアリー：複雑な河口システムの解明に向けて (E、会場：301A)

口頭：5月24日(日) AM2 ポスター：5月24日(日) PM3

M-IS05：新生代におけるアジアモンスーンおよびインド太平洋古気候 (E、会場：201A)

口頭：5月28日(木) AM1、AM2 ポスター：5月28日(木) PM3

M-IS21：ジオパーク (J、会場：304) 口頭：5月25日(月) AM1 ポスター：5月25日(月) PM3

※それぞれの時間帯は以下のとおりです。AM1：9:00-10:30、AM2：10:45-12:15、PM1：13:45-15:15、PM2：15:30-17:00、PM3：17:15-18:30

### ◆日本第四紀学会 2019年 学会賞・学術賞受賞記念講演会のお知らせ

期日 2020年2月29日(土)

場所 帝京平成大学 中野キャンパス(下記URL参照) 209教室

[https://www.thu.ac.jp/access/access\\_nakano/nakano](https://www.thu.ac.jp/access/access_nakano/nakano)

参加無料、申し込み不要

13:00- 受付開始

13:30-13:35 開会あいさつ

13:35-14:25 学術賞受賞講演 長橋良隆 会員：層序と火山ガラスの化学組成に基づくテフラ研究

14:25-14:35 休憩

14:35-15:25 学術賞受賞講演 奥野 充 会員：火山活動史と古環境・考古編年に関する放射性炭素年代学的研究

## ◆ 2019 年度第 2 回評議員会開催のお知らせ

下記の日程で、2019 年度第 2 回評議員会を開催いたします。開催時間、議事の内容など詳細が決まり次第、評議員等、関係者の方にはあらためてご連絡いたします。なお当日の午後には、同じ会場で、2019 年学会賞・学術賞受賞記念講演会が開催されますので、併せてご参加いただければ幸いです。

日時：2020 年 2 月 29 日（土）午前中（10:30 ～を予定）

場所：帝京平成大学中野キャンパス

議事：（調整中）

- (1) 2019 年度活動中間報告および会計中間報告
- (2) 名誉会員候補者選考委員会委員の承認
- (3) その他

## ◆ INQUA Summer School @Prague 報告

東北大学理学研究科地学専攻 博士 2 年 高橋直也

2019 年 9 月 24 日～27 日にかけてチェコ、プラハで開催された INQUA International Summer School on Active Tectonics and Tectonic Geomorphology に参加した。このサマースクールは、INQUA・TERPRO (Terrestrial Process, Deposits & History) 内の EGSHaz (Earthquake Geology and Seismic Hazards) が毎年開催しているもので、今回は講義と巡検が 2 日ずつの計 4 日の日程であった。本来であれば、PATA days と呼ばれるワークショップと合わせてイスラエルで開催される予定であったが、学生と ECR (Early Career Researcher) を対象としたサマースクールのみプラハで行われることとなった（写真 1）。参加人数は、講師を含めて講義に 64 名、巡検に 50 名であり、多くの参加者と交流を深めやすく、若手研究者にとって非常に有意義であった。

前日晩に行われたアイスブレイカーでは、昨年ギリシャで開催された PATA days で出会った友人や、同じ研究室で修士号を取得した留学生などと旧交を温めるとともに、主にヨーロッパ圏の学生と研究や学生生活について話した。どこの国の学生も普段の研究生活や将来について同じような不安を持っている印象を受けて少し安心した。一方、自国外の研究者との共同研究や、自国外の調査に取り組む人が多く、日本の学生が置かれている環境との差を感じた。各国の事情があるにせよ、国

外での経験は大きな刺激になるため、積極的に海外に出ていく必要性を感じた。

講義初日（9 月 24 日）は、INQUA が中心となって進めてきた地震ハザード評価とそのデータベースに関する話から始まり、活断層調査の最新の成果や研究手法についての話があった。ヨーロッパ圏は地殻変動がさほど活発でないこともあり、変位速度が非常に遅い断層の研究手法や、液状化などのオフフォールト古地震学の成果についての話が目立った。あまりなじみのない話ではあったが、日本でもいわゆる C 級活断層のように地形表現が乏しい活断層調査を行う上で参考になる要素もあるはずだと感じた。

講義二日目（9 月 25 日）は、地震やその他の現象に起因する地すべりの話から始まり、地震動や周氷河現象によって乱された地層の概要と解釈、数値標高データ (DEM) をはじめとしたリモートセンシングデータのまとめ、InSAR・GNSS などの測地学的研究の紹介などがあった。講義の合間には休憩が頻繁にあり、講義に関する疑問や普段の研究での疑問について議論する絶好の機会であった。最後の講義は地震地質学と地震ハザード評価という内容で、事例をもとにした練習問題を解きながら最新の研究成果とその応用について学



写真 1：会場のチェコ科学アカデミー Institute of Rock Structure and Mechanics



写真 2：中新世の泥岩に見られた擦痕。スケールは 10cm。



写真 3：左上の樹木の根のように見える部分が、変形した褐炭層。

んだ。地震ハザード評価については、活断層の研究をしている以上気にせずにはいられないトピックである。1日目の講義と合わせてINQUAの取り組みを知ることができ、自分が今後どのように関わっていくのかを考えるきっかけになった。

9月26日は巡検1日目であり、チェコ北部のEgerリフトを見て回った。ここは北東-南西走向の複数の断層によって形成された地溝帯であり、最近の研究によるとこの地域の応力場が過去3回変化しているらしく、今後の研究成果が待ち遠しい地点である。地溝帯西部にあるNechraniche湖周辺では、中新世の泥岩に記録された見事な擦痕(写真2)を観察したあと、湖岸の大露頭に移動した。そこでは、新第三紀の細粒堆積物と褐炭が広く露出しており、一部が奇妙に変形している箇所があった(写真3)。前日の講義で細粒堆積物の変形について紹介されたばかりだったため議論に花が咲いたが、残念ながら(?)地震動によるものではなさそうだということになった。

巡検二日目(9月27日)は、チェコ北西部のCheb盆地を中心に見て回った。この地方は地下に大量のCO<sub>2</sub>ガスが溜まっており、モフェット(mofette)と呼ばれる噴気孔が多数分布している。このガスは、1985年以降断続的に発生している

群発地震の原因の一つであると考えられており、CO<sub>2</sub>濃度の変化が地震活動と連動しているらしい。また、この地域には±0.0007mm以上の精度で断層周辺の岩石の変形を計測可能な3次元膨張計が設置されていた。巡検終了後には、基盤岩をくりぬいて作られたレストランで夕食をとった。このレストランはビール製造工場も兼ねており、伝統的なチェコ料理とビールに舌鼓を打ちながら、友人たちと今後の再会を誓った。

今回サマースクールに参加して一番感じたのは、毎年継続して海外での経験を積むことの大切さである。今回のサマースクールでは直接・間接的に何かしらの関わりがある人との出会いが多くあった。そのおかげか終始リラックスして臨むことができ、普段よりも積極的に交流ができたように思う。どの分野においても当てはまることだと思うが、国内の学会で議論できる内容はどうしても限られているため、普段目にしない研究にも触れられる国際学会やワークショップで得られるものは大きい。そこで気軽に話せる友人を作っておけば、専門外のことに出くわしても気軽に相談できるはずだ。金銭的に厳しいことは事実だが、学生のうちは友人も作りやすく無理をしてでも国外に行く価値があると信じている。

★★★ 第四紀学会に情報をお寄せください ★★★

日本第四紀学会では、第四紀通信のほか、メーリングリスト(ML)、ホームページ(HP)を用いて情報発信をしております。メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス(jaqua-koho(at)quaternary.jp)へご投稿ください。

情報発信の手段として、MLの積極的な使用をお願いします。MLへのご投稿についての詳細は、第四紀通信26巻5号の巻末をご覧ください(下記の通りHPでも閲覧可能です)。第四紀通信には主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報を、HPには主催・後援イベントなどのほか「公募・助成」情報等を掲載します。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。

第四紀通信は偶数月1日刊行予定としていますが、奇数月下旬には版下をHP(<http://quaternary.jp/>)にアップしていますのでご利用ください。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176